

暮らし・福祉・教育優先の市政をめざして

みんなが
住んでよかった
と思える川西市に...

たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 **黒田みち**

市議会議員控え室 TEL740-1111 (内線4020)

直通FAX759-1811

黒田みち事務所 TEL 795-4760

たんぽぽだよりブログ

http://kurodamich.exblog.jp



誰ひとり取り残さない・北部を衰退させない、住んでよかったと思えるまちづくりを～

「自治体の責務、公的責任」とは何か 3月議会 市長の「基本姿勢」と具体化策で討論

3月定例議会でも私(黒田)は、日本共産党議員団・会派を代表して、越田謙治郎市長の2022(R4)年度施政方針に対する総括質問を行いました。冒頭、変異を繰返す新型コロナウイルスが、こども達にまで蔓延する中、国の特別給付金支給やワクチン接種等で市民生活の安定を第一優先で奮闘していただいている皆さんに敬意と感謝の気持ちを伝え、市長が掲げる「1、市民とともに歩む、2、何気ない日常に幸せを感じるまちづくり」の基本姿勢とその具体策をただしました。質問の内容や当日の様子は、市議会ホームページに掲載・動画配信されています。

税金は、国民、市民が国や自治体に預けたもの。税金の使い方は、住民の命を守りくらしを支えること。誰ひとり取り残さない・困っている人をほっておかないことが市役所業務の基本です。

「何気ない日常に幸せを感じるまちづくり」

市長の掲げるまちづくりの基本姿勢について、

1、まちづくりの基本は、医

3、少子化対策の強化を

市民の安心・安全につながる、誰もが住んでよかった・住み続けたいと実感できるまちづくりになるよう、特に住宅団地として発展してきた本市は、これから世代交代していくことが要となるとの観点で質問しました。

2、市民の命最優先のまちづくりのために、
①保健所の復活、②市北部医療の確保と市民要望への対応方針、③市内ベッド数の確保・現川西病院の機能維持、猪名川町との連携、
④原油高がくらしを直撃している中で生活困窮世帯への福祉灯油への支援、⑤コロナ関連の給付金や様々な制度利用ができるように情報の周知や利用しやすいように国へ意見を、⑥生活保護制度の利用が必要な人に届くように、⑦市の財政健全化について――

「市民とともに歩む」

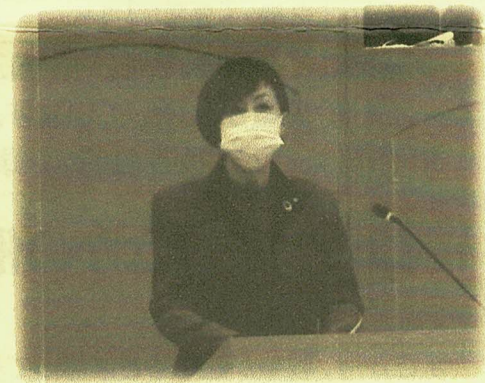
4、市内の基幹公共交通を守り地域公共交通を創設すること
①各地域の課題解決に向けた取り組みを進めること――など。
5、市民に信頼される市役所を
①職員が安心、やりがいの持てる職場、現場の実態が生かされる環境整備を行うこと――など。

市長は「市民とともに歩む」を市政運営の基本姿勢としています。そこで、

①市民への情報提供・説明責任が十分行われているか、
②市長・市と考え方が異なる意見を真摯に受け止め施策に反映しているか、
③市長のまちづくりの進め方に整合性があるか、討論しました。

市議会議員控え室

市議会議員控え室



「公的責任とは」を考える 公立幼稚園の廃園問題

3歳児・預かり保育・給食の実施を

たんぽぽだより232号でお伝えした「市立幼稚園の廃園計画について」の問題です。現在、緑台中学校区内には、市立松風幼稚園が廃園になり、公立園がありません。来年度に4歳児の入園が1人だからと廃園予定の清和台幼稚園が廃園になれば清和台中学校区(けやき坂含む)にも公立園がなくなります。

「私立に行けばいい」のでしょうか？

「私立に行けばいい」「他の公立園に行けばいい」と市は答弁しますが、それで解決できる問題でしょうか。地理的・交通網的・時間的・費用的な負担が増えることは誰が考えてもわかります。(裏面に続く)

兵庫県・65歳以上の補聴器補助(上限2万円)実現 400人モデル事業でスタート

県が、補聴器購入補助(モデル事業)をはじめます。

*4月1日現在、満65歳以上の方*聴覚障害による身体障害者手帳の交付を受けていない方*補聴器が必要と耳鼻科医師の診断を受けた方*事後のアンケート・モニタリングへの協力ができる方~以上の要件を踏まえた方から抽選で400人程度、上限2万円の補助。国への制度提案の根拠として活用するものだそうです。

聴こえづらくなることで、高齢者の日常に支障がでる・社会参加が低下する、認知症やフレイルなど心身の健康にも影響を及ぼすことから、高額な補聴器購入・買い替えに対する補助制度の創設を私たち日本共産党も市民の皆さんと求め続けていました。今春から国に要望するための県のモデル事業として実施されますが、募集人員や金額の拡充、国が実施すること、恒久制度にすることも求めています。

現在、明石市などの自治体では補助制度がスタートしています。県制度と併用できるように、また川西市でも独自補助制度を設けるように要求しています。

高齢になってもいきいきと活動することができるように今後も取り組んでいきます。

